

FOCUS ON

薬剤耐性結核



© The Global Fund / John Rae

**結核の治療と予防は、
この数十年で大きく進歩
しました。しかし、そうした
成果を脅かす公衆衛生上の
重大な課題として、薬剤耐性
結核の問題が浮上しています。**

最近では抗生物質が効かないスーパーバグと呼ばれる強力な耐性菌が数多く出現し、世界中でさまざまな問題を引き起こしています。薬剤耐性結核もその一つです。耐性菌は既存の治療薬が効かないため、治療の選択肢が少なくなり、結核を含め治療できたはずの疾患による死亡の増加にもつながっています。世界中で数百万という人びとの命が奪われる前に、私たちは速やかに、薬剤耐性菌の拡大を封じ込めなければなりません。

薬剤耐性の拡大は、結核の流行拡大と重なっています。結核の状況は、1990年以降に進展は見られるものの、いまだに年間160万人が結核で亡くなり、感染症の中ではHIVを上回り世界でもっとも多くの人命を奪っています。中でも薬剤耐性結核は増加傾向にあり、すでに過酷な状況をさらに困難にしています。

大きな課題

ほとんどの場合、結核は治療によって完治が可能です。しかし、標準的な結核治療でも6ヶ月間、治療薬を飲み続けなければなりません。吐き気や嘔吐、腹痛を引き起こす可能性もあります。治療期間の長さや副作用が原因で治療をやめてしまう人もいます。こうした治療の中断により、結核菌は主要な結核治療薬の少なくとも一つに対して耐性を持つようになります。その結果として薬剤耐性菌が生まれるのです。

世界全体で見ると、多剤耐性結核（MDR-TB）の患者が結核治療を受けても、その治療は半数しか成功していません。死亡率は高く、治療を途中でやめてしまうこともあります。超多剤耐性結核（XDR-TB）の治療に至ってはさらに状況は深刻です。2017年の世界保健機関（WHO）報告によると、治療に成功した患者はわずか30%でした。

薬剤耐性が広がれば、結核は一段と深刻な問題になります。薬剤耐性結核による死亡者数は、世界全体で薬剤耐

性に起因する死亡者数の1/3を占めています。薬剤耐性結核の治療は、通常の結核治療よりも費用がかかり、治療期間も3-4倍、長くなっています—しかも、すべての患者が助かるわけではないのです。

2017年には、薬剤耐性結核患者数は約55万8000人に及びました。世界的な医学専門誌ランセットの感染症評論号（The Lancet Infectious Diseases）に掲載された最新の研究では、今後20年にわたり、結核高まん延国のうち4カ国—インド、フィリピン、ロシア、南アフリカ—で薬剤耐性結核の拡大が予想されています。治療薬の誤用や不適切な投薬管理よりもむしろ、薬剤耐性結核菌の感染が人から人へと広がることによる拡大が予見されています。

結核の流行を2030年までに終わらせるという世界的目標を達成し、新たな健康危機を防ぐために、私たちは薬剤耐性結核の拡大を食い止めなければ

なりません。グローバルファンドは、低・中所得国における薬剤耐性結核対策の主な資金提供機関となっています。既存事業の見直しによって、多剤耐性結核対策に使える資金をこの6年間で3倍以上に増やしました。しかし、それでもまだ十分ではないのです。

全ての患者発見と診断

通常の結核は治療成功率が高く、死亡率も低下してきているのですが、それにもかかわらず、結核症例の見落とし—診断、治療、報告のいずれかが適切になされなかった患者—は結核対策において大きな課題であり、薬剤耐性結核を拡大させる一因でもあります。2017年には、世界全体で新たに感染したと推定される結核患者1000万人のうち、36%が見落とされていたと考えられています。



ウクライナ出身の18歳のミコラは、多剤耐性結核と診断された時、とても不安になりました。「人生は終わったと思いました」。それでも、彼は気を取り直して病気と闘い、毎日12錠の薬を飲み続けなければならない長く困難な治療に取り組みました。「僕にはまだこれからの人生がある。将来は困難と闘う人たちの手助けができるようになりたい。だから大学へ行って心理学を勉強したいと思います」とミコラは言います。「結核は僕を倒せませんでした。誰も、結核に勝たせてはいけなかったのです」。グローバルファンドの支援により、世界で1700万人以上が結核の治療を受けています。ミコラもその一人です。



ルーベン・キムウェリは、ケニアのキベラ・スラムで、診断・治療・報告されてない結核患者を探し出しています。この活動は、ケニアに拠点を置く国際保健NGOのアムレフが実施しているプログラムの一部です。薬剤耐性結核の増加を食い止めるために、世界中で何千ものコミュニティ・ヘルスワーカーが働いています。ルーベンもその一人です。

グローバルファンドの取り組み

通常の結核対策に加え、グローバルファンドは革新的なプログラムを支援するために触媒となる資金支援(catalytic funding)と呼ばれる新たな投資を開始しました。これは、2019年までに保健システムで見落とされている150万人の結核患者を追加で見つけ、治療につなげられるようにするため、エビデンスを集めて最も有効なアプローチを広げていくことを目指す投資です。この取り組みを通じ、結核と多剤耐性結核の未発見患者数全体の75%を占める13カ国—インド、バングラデシュ、コンゴ民主主義共和国、インドネシア、ミャンマー、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、南アフリカ、タンザニア、ウクライナ、ケニア、モザンビーク—に対し、グローバルファンドは計1億2500万米ドルの追加予算を投入しています。とりわけ、定期健康診断に結核のスクリーニングを加えることや、結核診療を行っている民間医療機関から国家結核プログラムへの症例報告をより効率的・効果的に行える仕組み作りに力を入れています。

グローバルファンドのパートナーシップでは、薬剤耐性結核対策の一つとして、新たな診断技術の導入や治療薬の調達も支援しています。WHOは、より効果的で、かつ有毒性の低い薬剤耐性結核の治療レジメン(投薬計画)を推奨しています。これは治療効果を高め、多くの人命を救う大きな一歩になるでしょう。

診断技術の進歩

GeneXpertの技術は、薬剤耐性結核の診断方法を一変させました。世界各地で何千件という結核検査を迅速かつ効率的に行うことができるのです。グローバルファンドのパートナーシップはこの技術の拡大に重点的に投資を行っていますが、依然としてまだ多くの需要があります。また、第二選択薬に対する薬剤耐性検査も広く実施できるようにしていかなければなりません。薬剤耐性結核患者を特定し、WHOが推奨するようなより効果的で、かつ有毒性の低い治療レジメンに導くことが重要になります。

新薬の誕生

グローバルファンドは、「ベダキリン」と「デラマニド」という二つの革新的な耐性結核治療薬を各国が導入できるよう支援を行っています。現在、ベダキリンは、米国国際開発庁(USAID)の援助によって、ヤンセン・ファーマ社から無償で入手することができるため、各国は、治療に充てていたグローバルファンドの支援プログラムの内容を見直し、多剤耐性結核の対策に追加で資金を回せるようになりました。これらの新薬は副作用が少なく、より効果的で、患者が治療を中断せず、完治するまで続けられる可能性が高くなります。

コミュニティの参加

結核患者が完治前に治療を中断してしまうことはよくあり、耐性菌を増やす原因になっています。グローバルファンドはコミュニティでの仕組み作りに投資し、結核について認識を高め、患者に対する差別を無くし、治療やケアへのアクセスを改善するために活動するボランティアを支援しています。

家を一軒一軒回り、地元の人々の治療を支えるコミュニティ・ヘルスワーカーへの支援を通じ、世界各地で、それぞれの地域の医療従事者と協力して、薬剤耐性結核の感染予防と治療に取り組んでいるのです。



© The Global Fund / Photo courtesy of Mildred Fernando-Pancho

グローバルファンドが支援する国々における成果(2017年)



5 MILLION

500万人の結核患者が治療を受けました



102,000

10万2,000人の
薬剤耐性結核患者が
治療を受けました



3,180

3,180人の
超多剤耐性結核患者が
治療を受けました



97,500

結核患者と接触した
9万7,500人の子どもたちが
予防的治療を受けました

フィリピンでは、グローバルファンドのパートナーシップによる支援を通じて、18人の超多剤耐性結核患者が治療を受けています。ミルドレッド・フェルナンダー・パンチョのように、すでに治療を終え、健康を取り戻した人たちがいます。ミルドレッドは、2001年に通常の結核と診断されました。その後、10年にわたって、超多剤耐性結核を含む様々な苦難に耐えつつ治療を続け、2011年に最後の治療を終えるまで闘ってきたのです。現在、ミルドレッドは結核に苦しむ人々の支援者として活動しており、「これが私にできる恩返しなのです」と語っています。

健康の安全保障

感染症に国境はありません一人びとが移動すれば、感染症も広がります。結核の場合、発病していながら治療を受けていない人は、年間で10-15人に感染してしまうことになると言われています。グローバル化が進む今日において、結核の流行を終わらせることは世界の人びとにとって非常に重要なことなのです。薬剤 耐性結核の流行を終息させることは、数百万人の命を救い、脆弱な低・中所得国のコミュニティと経済を再び活気づけるだけでなく、世界的な健康の安全保障にも大きな影響をもたらします。グローバルファンドは、各国へ配分される資金だけでなく、移住労働者の多剤耐性結核対策、難民や国内で家を追われた人びとへの治療など、国境を超えた課題に対する特別資金も供与しています。また、過密な環境で暮らしている貧しい人びとや移住者、受刑者、難民、炭鉱労働者、薬物使用者など、薬剤耐性結核に感染しやすい状況にある人びとへのケアと治療を確保できるように支援しています。

より強靱な保健システム

結局のところ、薬剤耐性結核対策も、しっかりとした保健システムがあり、それがうまく機能するかどうかにかかっているのです。グローバルファンドの資金の1/4は、医療従事者へのトレーニングや保健施設と医療アクセスの改善、情報システムやサプライチェーン（供給網）の強化など、強靱で持続可能な保健システムの構築に使われています。



ヨルダンの砂漠にあるザータリ難民キャンプ。グローバルファンドは、結核の予防・診断・治療に不可欠なサービスをシリア難民に提供するプログラムを支援しています。シリアの内戦を逃れた人びとの一時的な避難所として開設されたこのキャンプは、今では8万人を抱える都市と化しています。ここに暮らす人々は、到着時の結核検査や医療施設への紹介サービス、健康教育などを受けることができます。

グローバルファンドとは

グローバルファンドは、エイズ、結核、マラリアの三大感染症の流行を終結に導くための21世紀型パートナーシップです。政府、市民社会、民間部門、それぞれの疾患に影響を受けている人々によるパートナーシップとして、毎年約40億米ドルの資金を動員・投資し、100カ国以上で地元の専門家が運営するプログラムを支援しています。流行終結を阻むものに果敢に挑戦し、革新的なアプローチを活用することで、グローバルファンドはこれらの感染症に影響を受けている人たちのために力を合わせて取り組んでいます。